

令和2年度(2020年度) 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	35	学校名	県立茨城東高等学校				課程	全日制		学校長名	山崎 浩之					
教頭名	片岡 一郎								事務(室)長名	小池 孝						
教職員数	教諭	36	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	4	実習教諭, 実習講師, 実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	53
生徒数	小学科		1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数			
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女				
	普通科		51	38	63	51	54	51			168	140	11			

2 目指す学校像

<p>「夢・希望・自己実現」のテーマの基に</p> <p>(1) 新たな夢・目標を常に持ち続け、自己の可能性を伸ばす。</p> <p>(2) 基本的生活習慣を確立し、基礎学力を向上させ、進路希望の実現を図る。</p> <p>(3) 気力・体力・忍耐力を養い、社会に必要とされる人間の育成を図る。</p>

3 現状分析と課題 (数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板を取り入れた授業が生徒に受け入れられており、授業に対する興味関心を持つ契機になっている。特に学校設定科目「ベーシックトライ」では電子黒板の活用と反復学習が奏功し、基礎学力や学習意識の向上が見られた。 学習に苦手意識を持ち、学習習慣が身に付いていない生徒がいる。 学習に対する目的意識が希薄で、目標設定がなされていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子黒板及びタブレット型パソコンの利活用の更なる工夫。 日頃からの教材・指導法の工夫改善による、分かる授業・達成感の持てる授業の実践。 何のために今学んでいるのか、という学習の目的を生徒に認識させる授業の実践。 家庭学習の習慣化を図る。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> 学校設定科目である「キャリアデザイン」と「ベーシックトライ」を導入した効果が表れている。 学校紹介による就職内定率は約9割である。 推薦入試やAO入試を利用した上級学校への進学者が多い。看護専門学校に一般入試で受験をし、合格をする生徒が出た。 令和元年度の公務員合格者は、3名である。 	<ul style="list-style-type: none"> 各年次の目標を明確にするとともに、3年間を見通したより計画的・系統的な指導による「キャリアデザイン」に係る取り組みの推進。 就職に関しては、高い内定率を得ているが、内定後の辞退者や入社後の早期退職者がいることから、今後も早期からの就職に対する意識付けと面接指導等を行う必要がある。

生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識や、基本的な生活力に欠ける生徒が目立つ。 ・自己中心的な立場から物事を判断し、協調性にやや欠ける生徒が目立つ。 ・自己効力感の低い生徒や、家庭環境が複雑な生徒など、悩みを抱えた生徒も多く、丁寧な指導が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主に大学進学希望者等を対象とした課外や個別指導の充実と模擬試験等のさらなる活用。 ・生徒の規範意識の高揚、基本的な生活習慣の確立を目指す指導の徹底（身だしなみ指導、形態指導、遅刻指導など）。 ・学校教育全般を通じた道徳教育の充実。 ・スクールカウンセラーの積極的活用による教育相談体制の充実などを含めた組織的な生徒指導体制の構築（報告・連絡・相談）。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率が約 20%であり、運動部では、本校単独での大会出場が難しい部活動がある。しかし、どの部活動も上位大会出場などの目標を掲げ、毎日練習に励んでおり、バドミントン部と卓球部は県大会出場を果たした。また、文化部においても、上位大会出場を目標にした、創作活動に熱心に取り組んでいる。 ・生徒会及び常任委員会は、生徒が主体的に活動できるようになりつつある。 ・自然環境保全活動団体「We are 潤沼っ子！」の設立にともない、校内外において、ボランティア活動等を実施することで、地域社会の一員としての自覚や奉仕の精神を培っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率 40%を目指した部活動の奨励と、上位大会出場を目標に掲げての、一層の指導の充実。 ・生徒が活躍できる場所と機会を増やすための定例かつ偏りのない常任委員会活動の実施。 ・校内外において、ボランティア活動や体験的な活動を奨励し、地域社会とのつながりとともに一人一人の心の成長を図る。 ・キャリア・パスポートの有効な活用を図る。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・1月につき、勤務時間外の校内在校時間合計が、80時間を超える職員は少数であるが、45時間を超える職員は5人から10人いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務時間外の校内在校時間が、ほぼ全職員に該当するので、勤務時間外の校内在校時間の縮減に努める。

4 中期的目標

- (1) 健全で調和のとれたたくましい人間育成のため、規範意識の高揚と基本的な生活習慣の徹底を図り、道徳教育の確立を図る。
- (2) 確かな学力を身に付けるため、自発的な学習態度や家庭学習の習慣を身に付けるための指導法を改善し、基礎学力の向上を図る。
- (3) 生徒の進路意識の高揚を図るため、キャリア教育を充実するとともに、ガイダンス機能を充実させ、進路指導体制の確立を図る。
- (4) 働き方改革について、職場環境を整備するとともに、職員の意識改革を図る。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
(1) アクティブスクールに係る取組のさらなる充実を図る。	① 生徒、保護者、地域の実態及び要望を適確に把握し、全職員の共通理解のもと、アクティブスクールに係る取組を推進する。 ② 実態や要望を学校の将来構想及びグランドデザインに反映させ、特色ある取組のさらなる充実を図る。
(2) 生徒一人一人の進路実現に向けた教育活動のさらなる充実を図る。	① アクティブスクールの利点を活かして、基礎学力の定着及びキャリア教育に係る取組のさらなる充実を図る。 ・「ベーシックトライ」のさらなる工夫・改善，ICT機器を効果的な利活用，習熟度別授業の効果的展開。 ・「キャリアデザイン」をはじめとするあらゆる機会を捉えてキャリア教育の充実を図り，望ましい職業観・勤労観を育成する。 ② 生徒の実態に即した指導を展開することで，一人一人の進路実現のために必要となる力を育てる。 ・家庭学習の習慣化や，遅刻指導やチャイム着席指導の徹底による授業を大切にする意識の育成。 ・相互授業参観や校内研修等による教員の指導力の向上。 ③ 一人一人の進路希望に対応できるきめ細やかな指導を展開する。 ・生徒の勤労観，職業観の育成につながるインターンシップやデュアルシステムのさらなる充実。 ・3か年を見通した進路指導計画の見直しと指導の工夫・改善。 ・各種資格取得に向けた取組の工夫，改善。 ・模擬面接指導，各種模擬試験，課外授業等の充実。 ・進路に関する情報の共有及び生徒・保護者への提供方法の工夫・改善。 ④ 生徒の活動結果をキャリアパスポートに有効に反映させる。
(3) 道徳観・倫理観を育成し，豊かな人間性を培う。	① 「ダメなものはダメ」という厳しい態度とともに，生徒に寄り添う姿勢で指導に当たる。指導は教職員全体で行う。 ② 生活の自己管理能力を涵養する。 ・基本的生活習慣を確立させる。 “欠席をしない，身だしなみを整える，あいさつを励行する，時間を守る”の徹底を図る。 ・礼儀や言葉遣いなど，基本的なマナー及び公共マナー・交通マナーを身に付けさせる。
(4) 学校行事や部活動を通して学校生活を充実させる。	① 部活動への興味・関心を高め，積極的に部活動に参加させる。 ② 生徒会・各種委員会活動の活性化を図る。 (学校への帰属意識の高揚，高い目標での自己実現を目指させる) ③ 校内外での体験的な活動を通じて，他者への理解を深め，一人一人の心の成長を図る。
(5) 地域に貢献し，信頼される学校づくりを推進する。	① 家庭・地域社会と適切に連携協力して，開かれた学校づくりを推進する。 ② 学校ホームページやマスコミ等を活用して，学校の教育活動を積極的にPRする。 ③ 事件・事故の防止に努め，安全・安心な学校づくりを推進する。

(6) 働き方改革	① 1月の勤務時間外の校内在校時間合計が、80時間を超える職員を0人とする。 ② 1月の勤務時間外の校内在校時間合計が、45時間を超える職員は5人以下にする。
(7) 新型コロナウイルス感染予防対策対応	① 新型コロナウイルス感染予防対策における、学習機会の確保その授業の補填、変更された学校行事の運営及び全体的な学校運営を円滑に進める。